

朝の連ドラ「ごちそうさん」で
主人公の「め以子」がこう叫ぶシーンがありました。

「だって御飯は1日に、たった3回しか食べれないんだよ…！」

食事は1日に3度となったのは
エジソンがトースターを売るための広告だった！
なんて話もありますが、、、はてさて???

さておき、やはり限られた時間のなかで、
限りある食事の機会、それをともにする愛おしい器です。
限られた時間、限りある機会、ともにする器やテーブル、
椅子達は「人生の相棒」であって欲しいと私達は思うわけです。

51%では2月15日からの9日間、
鎌倉の「うつわ祥見」祥見知生さんセレクションによる
器の数々をご紹介します。

人の手の中に包まれる日々の器たち、
飽きずにずっと付き合える、
暮らしの器が届きます。

どうぞお出かけください。



日々のうつわ、ともに暮らす器たち

2014.2.15[sat] - 23[sun] / 10:00 - 18:00[open everyday]

プロデュース

うつわ祥見
祥見知生

主な作家

石田誠 尾形アツシ 小野哲平 亀田大介
吉岡萬理 吉田直嗣 横山拓也

会場

五割一分 富山県富山市磯部町3-8-6
tel 076-491-5151 www.5wari1bu.jp

うつわ祥見[<http://utsuwa-shoken.com>]

うつわ祥見主宰/祥見知生

北海道生まれ。神奈川県鎌倉市在住。

2002年 鎌倉の高台にプライベートギャラリーとしてオープン

2008年 鎌倉・御成通りに常設の空間「onariNEAR」をオープン

ごはんのうつわ展、めし碗展など、食べる道具の美しさを伝えるテーマ性のある器の展覧会を全国各地で開くなど、器の魅力を伝える活動を精力的におこなっている。また、細野晴臣さん、大貫妙子さんら音楽家との交流も深く、音楽ライブの企画・主催なども手掛ける。

主な著書

『うつわ日和。』『セツローさん』『やさしい野菜やさしい器』(ラトルズ)

『日々の器』(河出書房新社)、『器、この名もなきもの』(里文出版)

イチカワヨウスケ著『「なると屋+典座」の野菜をいただく』(主婦と生活社)

主な展覧会

「うつわハートフル展」「TABERU」東京・国立新美術館地階SFTギャラリー、京都・恵文社ほか。「土から生まれるもの」「まきので食べるを考える」「樹と言葉展」

高知県立牧野植物園。「TABERU 日々のうつわ 手に包まれる食の道具たち」高知

県立美術館

【作家紹介】

【石田誠】薪窯焼成による南蛮焼締や、スリップウェア、地元愛媛の磁器土を使った紅毛手(デルフト)など、奇をてらわず素材の土に素直な器を作る。人間味にあふれる飄々とした独特の味わいある作が多い。

【尾形アツシ】土の持ち味に逆らわず、原土に近く鉄分の多い土のよさを引き出す。粉引き、刷毛目、灰釉の器。土味のある平皿やめし碗など、基本の器に人気がある。

【小野哲平】高知の棚田の美しい山あいにて、薪窯焼成の器を中心に力強く頼りがいのある日々の器を作る。インドやアジアの国々への旅を原点に、素朴さ、あたたかさ、純朴な豊かさを心に蓄え作る器には、ごまかしのないおらかな眼差しが感じられる。

【亀田大介】福島県浪江町の約300年の歴史がある大堀相馬焼の窯元のひとつである「松助窯」の4代目当主として伝統的な大堀相馬焼に加え、焼締・粉引・白磁を中心としたやきものを制作。東日本大震災・福島第一原発事故で、神奈川に避難されたのち、2013年春、別府の地へ新天地を求めて移住し作陶を続けている。

【吉岡萬理】粉引き、鉄彩、刷毛目、そして自由奔放な色絵まで。潔く美しいかたちとともに、オリジナリティに富む表現で器を作る。器、花器や油彩絵画など、鮮やかな色彩の色絵には弾む楽しさがある。

【吉田直嗣】白磁作家・黒田泰蔵氏に師事。独立後は鉄釉の黒の器を作り、緊張感の漂う美しいかたち、深い色合いで独自の世界を作り出した。繊細さと大胆さが魅力の器の作り手である。近年は白磁に取り組む。

【横山拓也】黒土に何度も白化粧を施した印象的な器を作り注目される。独特のかたちと存在感のある碗や台皿など、静けさを内包した佇まいの器を作る。近年はざっくりとした印象の黒の器も発表し、表現の幅を広げている。

